

地震被害の軽減に向けた研究者たちのメッセージ

—阪神・淡路大震災 20 年：地震関連科学の到達点と新たな決意—

【趣旨】

1995年に起きた阪神・淡路大震災は自然の脅威を再認識させ、科学技術への過信を戒めるべく「安全神話の崩壊」という言葉が飛び交った。地震研究や防災施策のありかたについても大幅な見直しが行われた。それ以来、様々な努力が続けられてきたが、2011年の東日本大震災では、またもや「想定外」を繰り返してしまった。地震関連科学の研究者たちはこの20年、何を考え、何を指してきたのか。阪神・淡路大震災が提示した課題と、どう向き合おうとしてきたのか。そして、未来社会にどんな希望を託そうとしているのか。「想定外」が招く悲劇を繰り返さないために、広く市民を対象として、地震被害の軽減に向けたメッセージを神戸から発信する。

【主催・共催団体】

主催：日本地震学会（幹事学会）、日本活断層学会、日本地震工学会

共催：人と防災未来センター、兵庫県立人と自然の博物館

後援：文部科学省、兵庫県、神戸市、土木学会、日本建築学会、地盤工学会、日本機械学会、NHK 神戸放送局、神戸新聞社、サンテレビジョン

【日程】平成27年1月24日（土）9:30-16:45（受付：9:10）

【会場】兵庫県私学会館（神戸市中央区北長狭通4丁目3-13、
最寄駅：JR元町、阪神元町）

大ホール 定員 150名

【事前申込】不要

【参加費】無料

【内容・プログラム】

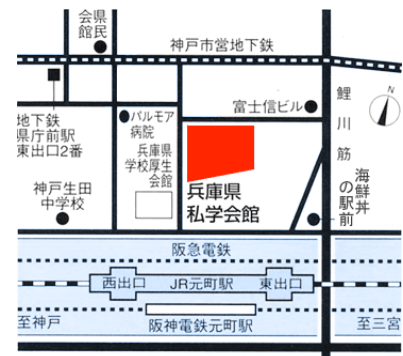
○開会 9:30-10:00

・開会、主旨説明、主催者挨拶

○第1部 敵を知る：地震の脅威の解明 10:00-12:00

地震、活断層、強震動に関連して、兵庫県南部地震のメカニズムを含め、その後の研究で判明したこと、それらの研究成果がどう役立ちまだ途上であるか、また将来に向けた萌芽研究について、分かり易く解説する。

- ・内陸地震発生に関する研究 飯尾能久（京都大学防災研究所）
- ・活断層の変動地形学的研究 鈴木康弘（名古屋大学）
- ・活断層の地震地質学的研究 杉山雄一（産業技術総合研究所）
- ・強震動予測研究 入倉孝次郎（京都大学名誉教授、元日本地震学会会長）



○第2部 己を知る：減災・防災に向けて 13:00-15:00

阪神・淡路大震災をもたらしたさまざまな要因の検討と、それによる減災・防災対策がどう役立ってきたか、さらに発展途上や将来に期待される最新技術を分かり易く紹介する。

- ・既存不適格建築問題 林 康裕（京都大学大学院工学研究科）
- ・高層ビルの耐震安全性 福和伸夫（名古屋大学減災連携研究センター）
- ・地震対策と早期復旧 清水謙司（大阪ガス(株) 導管事業部 中央保安指令部防災・供給チーム）
- ・E-ディフェンスによる地震防災への取り組み 梶原浩一（防災科学技術研究所兵庫耐震工学研究センター）

○第3部 パネル・ディスカッション（まとめに代えて） 15:15-16:45

地震被害の軽減に向けた地震関連研究の到達点と研究者のロードマップ、これからの地震対策（政府・自治体から個人レベルまで）への研究者からの提言について、さらには今後の学問的なフロンティアや次世代への期待まで語りあう。

- ・市民の期待や不安や疑念にどこまで研究者は応え切れているのか
- ・市民・研究者はそれぞれの期待にどう歩み寄ればよいか
- ・地震被害の軽減に向けて未来社会を構想する
- ・減災未来社会を構築するために、市民・研究者は何をしてゆくのか

○閉会

【実行委員会構成】

飯尾能久(京都大), 香川敬生(鳥取大, 幹事), 加藤茂弘(兵庫県立人と自然の博物館), 近藤伸也(人と防災未来センター), 近藤誠司(関西大), 小檜山雅之(慶應義塾大), 境茂樹(安藤ハザマ), 鈴木康弘(名古屋大), 古屋治(東京都市大), 山口勝(NHK 放送文化研究所), 吉岡祥一(神戸大)

【問い合わせ先：担当者】

香川敬生

鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻

〒680-8552 鳥取市湖山町南 4-101

電話：0857-31-5641, FAX：0857-31-6097

e-mail：kagawa@cv.tottori-u.ac.jp